

感染予防学特論

[講義] 1年・2年 後期 選択 30時間 2単位

《担当者名》 塚本 容子(デ) [yokot88@hoku-iryo-u.ac.jp]
山田 拓 [yamada_k@hoku-iryo-u.ac.jp]

【概要】

我が国における感染予防を考える中で重要な項目を、微生物学・感染症学の基礎を押さえながら学習する。取り上げるトピックとしては、無菌法の臨床における活用として「手指消毒」、また感染症学の中でも重要となる「多剤耐性微生物」、「環境要因と感染症」である

【学修目標】

- 1) 感染予防における概念的枠組みを理解できる
- 2) 手指衛生におけるエビデンスおよびアドヒアランス向上のためのストラテジーを理解できる
- 3) 多剤耐性微生物に関する基礎的知識を習得する
- 4) 感染症における環境要因について理解できる

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	感染予防学概論	感染予防における概念的枠組み	塚本 山田
2	無菌法の臨床における応用：手指衛生に焦点を当てて	1) 手指衛生と医療関連感染-手指衛生の意義とその重要性 2) 手指衛生のガイドラインの背景 - CDCガイドラインとWHOガイドラインの比較	塚本 山田
3・4	無菌法の臨床における応用：手指衛生アドヒアランスとそのリスクファクターについて	系統的文献分析の手法を用いながら最新の知見を得る	塚本 山田
5・6	無菌法の臨床における応用：手指衛生アドヒアランス向上のための戦略	アドヒアランス測定方法と実際の介入、効果的な教育方法	塚本 山田
7・8	「多剤耐性微生物」の基礎	1) MRSA, VRE, CREなどの微生物学的特徴 2) 発生要因 3) 発生時必要な検査について 4) 抗菌薬と適正使用	笠原敬(特別講師) 塚本
9・10	「多剤耐性微生物」発生時の対応	1) 手指衛生と環境汚染 2) 環境整備について：清掃の保証、必要とされる環境消毒薬 3) 芽胞形成細菌の特徴と環境消毒について	笠原敬(特別講師) 塚本
11・12	「環境要因と感染症」	災害時に起こる感染症 天候変動(Climate Change)と感染症発生の変化 新興感染症・再興感染症	塚本
13 (15	演習	本講義で学んだことからトピックを1つ選択し、系統的文献分析やメタアナリシスの手法を用い、その分析結果についてプレゼンテーションを行う	塚本 山田

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部(研究科)、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

プレゼンテーション（見やすい資料・わかりやすい説明）40%、参加状況（準備・質疑）30%、レポート30%により、総合的に評価する

【教科書】

随時提示する

【参考書】

随時提示する

【学修の準備】

必要な文献・資料等を熟読すること。事前の学習課題を課すので、講義前に準備しておくこと。

【学修方法】

すべてのテーマにおいて、事前の学習課題を提示する。実際の授業では、事前の学習課題のディスカッションを中心に進めることでアクティブラーニングを推進する

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

本科目の内容は、看護学における高度な専門性と研究能力を修得するという看護学専攻博士前期（修士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。